第 24 期日本学術会議健康・生活科学委員会看護学分科会 第 1 回会議録（概要版）

開催日時：2017 年 11 月 19 日（日）14:00～16:00

場所：慶応義塾大学信濃町キャンパス 孝養舎（4 階 405 教室）

参加者：片田（司会）、内布、太田、小松、野嶋、正木

オブザーバー：浅野、井上、菱沼、南、吉沢、寶金、西村（記録）（順不同、敬称略）

資料

- ・日本学術会議健康・生活科学委員会看護学分科会名簿
- ・健康・生活科学委員会「看護分科会」の設置について
- ・健康・生活科学委員会「ケアサイエンス」分科会の設置について
- ・臨床医学委員会「高齢社会の学術基盤となるケアサイエンス分科会」の設置について
- ・「地域創成時代の看護系大学のチャレンジー看護学の変革と課題」シンポジウムポスター

【議題】

（1）看護分科会のメンバー構成について

- ・第 24 期は、看護学より 2 名（片田範子、小松浩子）が日本学術会議会員となった。
- ・臨床医学委員会より、寶金（ほうきん）清博第 2 部会員（北海道大学病院長）、及び多久和典子第 2 部会員（石川県立看護大学）が看護分科会のメンバーとなった。

（2）看護分科会委員長等の選出

委員長：片田範子、副委員長：小松浩子

幹事：井上智子、西村ユミ

（3）24 期看護分科会の活動計画

- ・現状では、17 名（内会員 4 名と連携会員 13 名）で構成されているが、今後、他委員会の会員または連携会員から 2、3 名程度に加わってもらい、活動を行う予定である。

（看護分科会での 24 期の「審議事項」について）

- ・看護分科会の資料には、審議事項を 4 点挙げているが、24 期の活動として取り組む内容を検討した結果、下記の通りとなった。

1. 「地域共生社会形成のための多分野連携に基づく看護学、看護分野の貢献に関する検討」は、文言を「人口減の社会からの発信」を主軸として、引き続き審議事項とする。
2. 「時代や社会・人々のニーズと看護学に関わる重要課題の検討」は、引き続き「高度実践看護の役割拡大と提言」として、審議事項とする。

なお、看護分科会メンバーは、両者、あるいはいずれかの審議事項の検討班に加わる。

(4) ケアサイエンス分科会（仮称）の立ち上げについて

小松委員より、寶金委員から「高齢社会の学術基盤となるケアサイエンス分科会」設置の提案があったことの報告があった。これを受け、健康・生活科学委員会からの提案として「ケアサイエンス分科会」設置の提案をすることとなった。

設置の目的及び審議事項については、下記の通りとなった。

- ・具体的な内容（「死」など）は入れず、様々な世代の生と死等の教育に関する検討事項を入れる。

- ・学際的な取り組みに基づく「高齢社会に向けて貢献できる提案」を目指す。

- ・介護の可視化やロボット工学の研究者などにも加わってもらえると良いため、寶金委員の文言にある「本分科会は、医学と看護、介護、福祉、さらには行政、そして、地域研究、様々なデータサイエンスや工学的な視点を合わせて、こうした高齢社会を支える基盤となる「ケアサイエンス」の教育・研究のあり方を提唱することを目的として設置する」を参考に、様々な分野の知を結集して活動していくことを記す。

- ・当事者の「ケアサイエンス」、つまり、専門家ではない人たちが「ケア社会」を構築するという提案をする。他

（分科会名）

- ・「高齢社会におけるケアサイエンス」など、高齢化社会の中のケアに関する課題の提言に多分野で取り組むことがわかる表現とする。

（期限）

- ・幹事会承認日から平成 32 年 9 月 30 日までとし、提言等の成果を評価してその後を検討する。

（メンバー）

- ・看護分科会（主にケアサイエンス班）、及び臨床医学委員会から数名、他委員会会員で構成する。

（今後の予定）

- ・24 日までに作成して提出し、健康・生活科学委員会に提出について相談する。

【報告】

- ・太田委員より、日本学術会議健康・生活科学委員会看護学分科会主催のシンポジウム「地域で暮らす人々とロボットとの共生」が、11 月 3 日に日本公衆衛生学会総会（鹿児島）の市民シンポジウムで開催されたことの報告があった。

【会議日程】

今後の会議日程は、概ね、下記の通りとなった。改めて、日程調整は改めて行う。

- ・2018 年 1 月末、4 月末（連休前）、6 月

以上